

“幾らでも”より“1円から”，2人の一葉より1人の諭吉：
最低金額のアンカリング効果における数値の影響

佐藤大雅 田中楽 堂下悠太 中村國則
(成城大学社会イノベーション学部)

近年，何かの支払いを求める際に示される“最低**円”といった情報が，かえって支払金額の目安となって示された最低金額に近い金額が選択され，結果的に支払い金額が下がってしまう“最低金額のアンカリング効果” (Stewart, 2009) が報告されている。本研究は，この最低金額のアンカリング効果において，“**円”という数値を提示すること 支払いの最低に言及することの効果を検討するため，最低金額への言及に数値の言及があるかどうか，および金額を示唆する札の画像の有無や種類の違いが寄付金額に影響するかを検討した。その結果，統計的には有意にならなかった場合もあったものの，金額に言及すること，および高い金額の札を提示することが寄付金額を高める可能性があることを見出した。

JEL 分類番号： D01, D91

キーワード： アンカリング効果， 寄付， 画像

1. イントロダクション

募金活動やクラウドファンディングといった不特定多数からの寄付は有効な資金調達の方法の 1 つとして定着している。この寄付を募る際、支払金額を少しでも多くするために“最低〇〇円から”といった形で最低金額を明示して寄付を募ることがしばしばある。しかし Stewart (2009)は、クレジットカードの返済という場面では、この最低金額の設定が意図に反して逆に支払いの額を下げてしまうことを明らかにした。彼の研究によれば、最低金額として設定される値(“£5.42”)が、逆に支払う側にとっては額を決めるアンカー(Tversky & Kahneman, 1974)となり、この値に引きずられて結果的に最低金額を表示しない場合よりも支払い金額が低めてしまうという。このような最低金額のアンカリング効果は頑健で、Navarro-Martinez, Salisbury, Lemon, Stewart, Mathews, & Harris (2011)は、返済に関する詳細な情報を付け加えたとしても弱まらないことを報告している。では、このような最低金額のアンカリング効果はどのようなメカニズムで起きているのだろうか。本研究の目的は、以下の 2 点を通じてこの問題を検討することにある。

第 1 の点は、最低金額への言及に数値が含まれることがアンカリング効果を生み出しているのかを検討することである。Stewart (2009)の研究では、特定の金額(€5.42; Stewart, 2009, p. 40)アンカーがある条件と無い条件を比較し、アンカリング効果を検討している。しかしこのような実験操作では、払う金額について何か言及すること自体が問題なのか、それともアンカーとして数値を呈示することが問題なのかが定かではない。そこで本研究では“最低 1 円から”と“幾らからでも”といった、意味的には同一だが数値の有無で異なる 2 つの支払いの最低金額に関するアンカーの比較により、この問題を検討した。

本研究のもう一つの目的は、単純な数値だけではなく、金額を表す画像もアンカリング効果を生じるかを検討することである。Stewart (2009)を含め、これまでのアンカリング効果の研究では数値(“2.5€”, “60%”)がアンカー刺激として用いられていたが、お金の札(1000/5000/10000 円札)といった画像(図 1)は、数値そのものではないものの、そのイメージによって金額の大きさを表すことができる。例えば図 1 をみてほしい。この図は箱の中に 1 枚の札が入っていることを示しているが、この画像そのものからは数値を読み取ることができないが、画像をみれば明らかに特定の金額を表すことが理解できるものである。では、このような札の画像をみて参加者の寄付金額は影響を受けるだろうか。また、受け手としてその結果アンカーを示さない場合と比べて寄付金額は上がるだろうか。この目的の検討のため、募金箱の画像の中に入れられている札の金額を操作し、支払金額の差を検討した。

次の文章と写真を見て、質問にお答えください。

2018年2月26日 2時45分頃 ニューギニア付近のパプアニューギニア、ニューギニアで発生したM7.6の地震によって被害が出ています。支援活動や復興作業のための支援金はまだまだ必要です。この震災のためにあなたはいくら募金しますか。



払おうと思った金額

円

図1 本研究で用いた“1枚の札が箱に入っている”ことを示す画像：画像は1万円条件のものを示す。

方法

実験参加者、材料、および手続き

同種の実験経験のない私立大学生 254 名が授業の一環として実験に参加し、刺激の提示・従属変数の測定は全て冊子上で行った。実験参加者は(1)パプアニューギニアの地震で被災した人への寄付、(2)保健所の犬を助けるためのクラウドファンディング、(3)友人への借金返済、の3つの状況についてそれぞれ、寄付したい金額を回答することを求められた。

(1)の地震被災者に対する寄付の問題については、参加者に対して図1に示した文章および画像を提示したのち、寄付したいと思った金額を空欄で直接円単位で記入することを求

めた。アンカーの操作については、一万円札が投入されている透明な募金箱、千円札が 10 枚投入されている募金箱、五百円玉が 20 枚投入されている募金箱、中身の見えない白い募金箱の 4 種類を用意した。また、札が見えている 3 種類の写真の合計金額はどれも 1 万円分になるように揃えた。

(2)の問題については、図 2 に示したような刺激を提示したうえで、(1)と同様寄付したいと思った金額を空欄で自由回答で円単位で記述することを求めた。図 2 は“1 円”条件のものであり、“幾らでも”条件、アンカーなし条件については、図 2 の最後の行の部分がそれぞれ“幾らでも”に入れ替えられたもの、何も書かれていないものが提示された。

(3)については、参加者は以下のような文章を提示された；

あなたは、部活動の合宿に参加するために参加費 5 万円を払う必要がありました。しかし手元にまとまった金がなく、友人に 5 万円の借金をしています。全額返してしまうと、これから生活が厳しくなってしまいます。

「いくらでもいいから返してほしい」と言われたら、あなたはいくら返済しますか？

以上の文章は“いくらでも”条件のものであり、“1 円”条件の場合は下線部を“1 円”に、アンカーなし条件の場合は最後の行の文章が鍵カッコ内の文章なしに、単に“あなたはいくら返済しますか？”のみが書かれたものを提示された。参加者は文章を読み終わった後、自分が考える返済金額を円単位で自由記述で回答した。

以上の 3 つの質問は参加者は 10 分以内に終了した。



図 2 引き取り手のいない犬・猫に対する寄付の問題で提示された刺激例(“1 円”条件)

結果および考察

図 3～5 に各設問の実験条件ごとの結果を示す。これらの図をみると、個々の項目でアンカーの有無、およびアンカーの数値によって金額が変動しているのが分かる。すなわち、地震災害に対する寄付では札の額が大きくなるにつれ、犬や猫に対する寄付では“1 円”

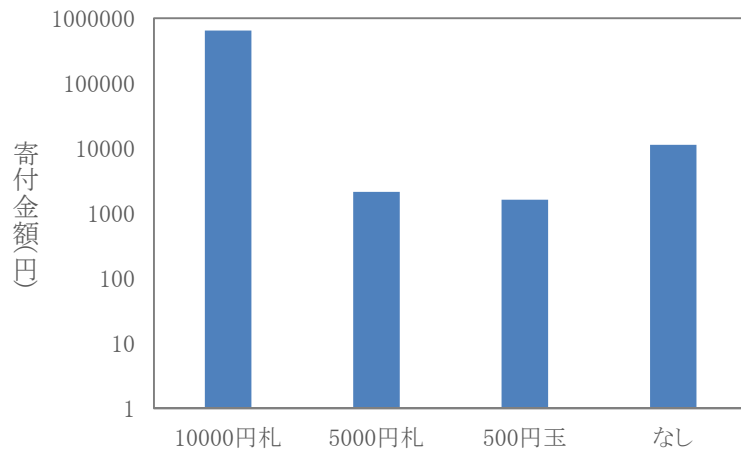


図3 地震災害に対する各条件の平均寄付金額

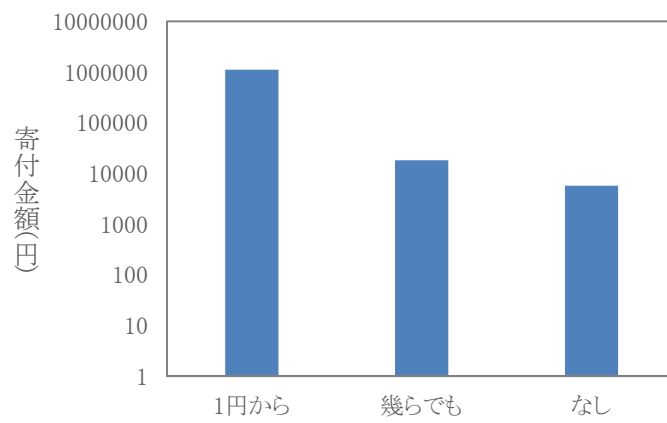


図4 犬・猫に対する各条件の平均寄付金額

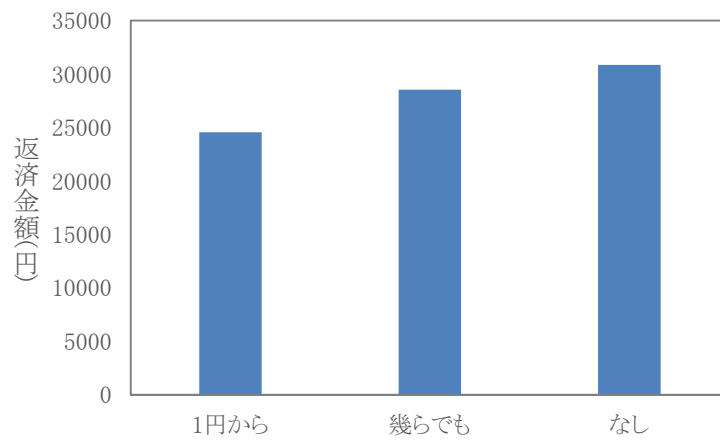


図5 各条件における平均返済金額

という金額がある方が、そして借金の返済に対してはアンカーがない方が逆にあるよりも支払い金額が高くなることがみてとれる。ただしこれら 3 つの項目についてアンカーの有無・性質を要因とした 1 要因の分散分析を行った結果、アンカーの主効果は(1)の画像($F(3, 238)=0.75, p=0.52$), (2)の犬猫への寄付($F(2, 239)=0.84, p=0.43$)の場合では有意にならなかったが、(3)の借金の返済でのみ有意となった($F(2, 239) = 4.54, p = 0.01$)。そして Tukey の HSD 法による多重比較の結果、アンカーなし条件と“1円”条件との間の差が有意となった($p<0.01$)。このような結果は、最低金額に言及することが返って支払金額を低める最低金額のアンカリング効果を再現したと同時に、その効果について重要なのが金額に言及することであることを示唆するものといえる。

4. 引用文献

- Navarro-Martinez, D., Salisbury, L. C., Lemon, K. L., Stewart, N., Mathews, W. J., & Harris, A. J. (2011). Minimum required payment and supplemental information disclosure effects on consumer debt repayment decisions. *Journal of Marketing Research*, 48, S60-S77.
- Stewart, N. (2009) The Cost of Anchoring on Credit-Card Minimum Repayments. *Psychological Science*, 20, 39-41.
- Tversky, A., & Kahneman, D. (1974). Judgment under uncertainty: heuristics and biases. *Science*, 185, 1124-1131.